

令和5年度
推薦入試

【 人文・文化 学 群 比較文化 学 類 】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
小論文（1）【英語】	<p>問 1</p> <p><u>出題意図</u></p> <p>“one of the great paradoxes of the human condition” が何を意味しているかを読み取り、パラドックスの要点を適切に理解し、それを日本語で簡潔に表現する能力を問う。</p> <p><u>解答例</u></p> <p>我々は、「ご機嫌いかが？」といった類の質問を繰り返すため、そこには何らかの重要性が加えられているかのように思われることもある。しかし、実際のところ、その質問に対して率直な答えを期待したり、要望したり、提供したりすることは決してなく、「いいよ、ありがとう、そちらは？」と反射的に答えている、ということ。(150 字)</p> <p>問 2</p> <p><u>出題意図</u></p> <p>“The irony” が何を意味しているかを読み取り、アイロニーの要点を適切に理解し、日本語で簡潔に表現する能力を問う。</p> <p><u>解答例</u></p> <p>我々が感情を無視し、抑圧すればするほど、皮肉なことに、その感情は強まる一方だということ。つまり、本当に強烈な感情というのは、我々の内部で増強され、我々が好むと好まざるとに関わらず、我々が行うあらゆることを必然的に害する暗黒の力ようになっていくのだ。例えば、傷ついた感情は、自然と消えていくこともなければ、癒やされることもないものであり、もし、我々がそうした感情を表現しなかったら、それらは、借金のように積み上がって、ついには支払い期限を迎え、我々は追い込まれるような状態になるのである。(244 字)</p>

問 3

出題意図

感情を認識したり表現したりすることを避ける人間の傾向と問題点を指摘する筆者の議論を理解し、自分の議論を組み立てる力を問う。

解答のめやす

我々が日常的に交わす挨拶のパターンを具体例として挙げながら展開される筆者の議論をふまえつつ、我々の感情との付き合い方について、独自の議論を正確かつ論理的な文章によって展開することが求められる。筆者の意見への賛否は評価対象とせず、適切な表現を用いて説得力のある議論を展開できているか否かを評価する。

令和5年度

推薦入試

【 人文・文化 学 群 比較文化 学 類 】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
小論文(2)【日本語】	<p>問 1</p> <p><u>出題意図</u></p> <p>本文を的確に読み取り、設問に即して規定字数以内でまとめる能力が求められる。</p> <p><u>解答例</u></p> <p>ヤスパースの「枢軸の時代」とは、彼の『歴史の起源と目標』で提言された理念である。紀元前 500 年を中心とする時代に、インドや中国、ギリシアの各地で様々な哲学者が活躍したが、大まかに前 800 年頃から前 200 年までに起こったこれらの知的変動は、単に偶然的な並行現象ではなく、人間存在がつねにそこに帰るべき根源として、世界史の軸をなすものであった。しかしヤスパースにはヨーロッパ中心主義が根強く残っており、彼が論じる世界史が、中国やインド、日本などを正確に理解していたとは言い切れない限界がある。だがそれにもかかわらず、ヤスパースが人類に共通するある出来事に注目し、そこに哲学の本源を捉えた意味は大きいものがある。(297 字)</p> <p>問 2</p> <p><u>出題意図</u></p> <p>「哲学とは何か」「人間とは何か」という問いは、人文学の基礎をなす問題であり、東西洋の区別を超えて普遍的な「人間」の性質を問うことは、人類が築いてきた様々な世界の文化を学ぶうえで重要な問いとなる。そのことへの各自の考え方を論理的にまとめられる能力が求められる。</p> <p><u>解答のめやす</u></p> <p>人類に普遍的・共通的と思われる「人間の性質」、たとえば、理性、感情、言葉、道具利用、知の探究、道徳心といった具体的な性質を挙げながら、論を展開していくことが要求される。</p>